

株式会社 ミヤワキ



企業紹介

1. 会社概要

社名 株式会社 ミヤワキ
 代表者 代表取締役 神戸鐵夫
 創業 昭和8年5月
 設立 昭和28年12月
 資本金 払込資本金 240万円
 諸積立金 3億4千万円
 売上高 26億円(昭和62年度実績)
 本社・工場 大阪市淀川区田川北2-1-30
 営業所・出張所 大阪・東京・名古屋・札幌・
 新潟・郡山・鹿島・千葉・静岡・富山
 倉敷・新居浜・広島・徳山・福岡

事業内容

スチームトラップ・減圧弁・蒸気-水混合弁
 ・節水型スプレーノズル・スチームトラップ
 チェッカー・ポンピングトラップ・エアトラ
 ップ・ガストラップ・エアレント・サイトチ
 ェッカー・サイトグラス・ストレーナ・セパ
 レータ・サイレンサー等、流体制御機器の製
 造販売

関連会社 宮脇精機興業株式会社

2. 当社のあゆみ

2-1. 創業から会社設立まで

当社は昭和8年、創業者である前社長 宮脇旋太郎が大阪市西区で宮脇商店を設立し、バルブ、配管機材、機械工具等の販売から出発した。昭和16年からの戦争のため一時休業したが、昭和21年宮脇旋太郎復員後、宮脇旋太郎商店を再開した。前社長宮脇旋太郎は戦前よりスチームトラップを研究しており、戦後その研究が実を結び、昭和24年「専売特許宮脇式スチームトラ

神戸鐵夫*

ップ」として発売した圧力差を利用する上向きバケット式スチームトラップは当時としては小型高性能で、好評を博し、蒸気エネルギーの有効利用に貢献した。販路の拡大と生産量の増大とともに、昭和28年法人化し、好評であった「宮脇式スチームトラップ」をそのまま社名とし「株式会社 宮脇式スチームトラップ製作所」と名づけ、スチームトラップの専門メーカーとしてスタートした。この年より数え本年は会社設立35周年、創業55年に当る記念すべき年になる。

2-2. 専門メーカーとしての30年

設立後数年間は上向きバケット式スチームトラップが中心であったが、日本経済も戦後の混乱期から立ち直り、高度成長経済に入っていく過程にあり、欧米の新しい技術、製品が紹介された。スチームトラップにも新しい原理のものが紹介された。

まず、サーモダイナミック式(ディスク式ともいう)スチームトラップが日本に紹介されたが、これは小型軽量でスチームトラップの革命的なものであり、高度経済成長の時代から現在までスチームトラップの主流となった。当社もこの方式の研究開発に取り組み昭和32年にディスク式スチームトラップS型として発売した。このS型は小型軽量で性能もよくその上安価なため以後当社の主要製品として改良やモデルチェンジをし今日まで続けている。

昭和35年には初代社長宮脇旋太郎がスチームトラップの研究を通じて我が国の蒸気エネルギーの有効利用に貢献した功績により紫綬褒賞を受賞した。そして、さらに新しい原理の円板バイメタル式スチームトラップの研究を始めた。これはバイメタルの特性である温度変化を力と変位に変換できる点を利用したもので最も理想的な円板形バイメタルを採用している。この頃

*神戸鐵夫(Tetsuo KAMBE), 株式会社ミヤワキ代表取締役, 京都大学工学部, 土木工学科

西独の会社がこの方式の技術を既に発表しており交渉して技術提携した。その後研究開発を進めて昭和37年に我が国で初めて円板バイメタル式スチームトラップB型を発売した。さらに昭和40年には高圧高温用（圧力200K, 温度550℃）ポップバイメタリックスチームトラップC型（日米英特許）を発売した。

昭和44年には現在地（大阪市淀川区田川北）に本社および工場を移転し研究開発力の充実、生産体制の増強、品質管理体制の確立、営業拠点の拡大を企った。

またこの年には下向きバケット式スチームトラップの研究開発も進み独自のSCCV機構（自己制御着座弁方式・日米英他特許）とスーパーディスチャージャー機構を備えたベルマイティスチームトラップER型を発売した。

昭和48年には円板バイメタルを使って温調トラップTB2型を発売した。これは復水の顕熱利用と温度コントロールが容易に出来るため省エネルギー効果が大きく、オイルショック後、日本の多くの工場の省エネルギーに貢献した。この温調トラップは昭和50年の化学プラントショーでCPアイデア賞、昭和52年には省エネルギー展にて省エネルギー優秀製品賞を受賞した。また、小型のベルマイティースチームトラップES型（実用新案）を発売し、その後省エネルギー優秀製品賞を受賞した。

昭和54年には各種プラントなどの銅管トレース用に円板バイメタル式のスーパートレースTB1型を発売した。昭和56年には日本機械工業連合会の優秀省エネルギー機器として温調トラップTB10・11型が表彰された。また、サーモワックスの元素を使ったラヂエータトラップW型を発売し、そのユニークな点が評価された。

以上のように設立からの約30年間はあらゆる型式のスチームトラップを研究開発し、多様化する顧客のニーズにスチームトラップ一筋で応えてきた。

2-3 専門メーカーから多角化へ

30年間に及ぶスチームトラップの研究開発で積み重ねられた技術は、関連機器の開発へと進

んでいった。

昭和57年にはスチームトラップ以外で蒸気系統の重要な機器である減圧弁の研究開発が進み小型直動型減圧弁RE1型を発売、またこの年スチームトラップの診断機器としてスチームトラップチェッカーSTC-011型を発売した。さらに英国BVMI社との間にスチームトラップの技術輸出契約をし、その技術員を本社工場にて研修させた。昭和59年には米国のITT社と販売提携をして本格的に米国市場に進出した。昭和60年にはミキシングバルブMK型を発売し新分野の販路も開拓、いよいよ專業から多角化への、また流体制御をシステムで考える企業への基礎が出来た。

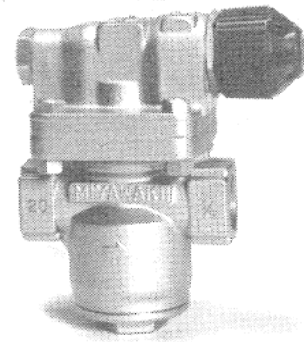


図1 超小型軽量減圧弁RE3型

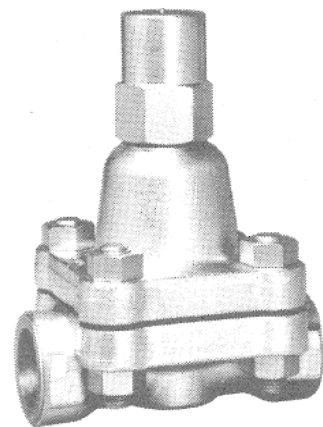


図2 高圧用温調トラップTB51型

昭和61年、CI導入により長年使い慣れた社

名「株式会社宮脇式スチームトラップ製作所」を「株式会社 ミヤワキ」と改称、同時に社章も変更し、スチームトラップの専門メーカーから「流体制御をシステムで考える」企業へとイメージを一新した。この方針のもと減圧弁シリーズのワイド化を進めて世界初の超小型軽量マイクロベローズ式パイロット作動形減圧弁RE10型を、引き続き昭和62年には同じくRE3型を発売した。(写真参照図1) この年減圧弁RE10型は省エネルギー展にて省エネルギー優秀製品賞を受賞し、また今年2月にはRE3型が(社)日本機械工業連合会の優秀省エネルギー機器賞を受賞した。さらに円板バイメタル式スチームトラップの改良型であるTB51型(写真参照図2)およびBX3型を引続き発売し現在に至っている。

3. 今後の研究開発

すでに述べたとおり、当社は一貫してスチームトラップ、減圧弁等の単体製品で熱エネルギー

の効率化を追求し続け、その成果として当社独自の臨界圧用高压トラップを初め小型、小容量から超多量用にいたる各種のスチームトラップ、減圧弁、ミキシングバルブなどさまざまな流体制御機器を製造・販売しているが、「流体制御をシステムで考える」を方針として、今後もこれら機器のより高機能・高品質・高信頼性を企むための研究開発またはこれらを組み合わせたトータルシステム化を研究開発課題としている。

4. あとがき

会社のあゆみや今後のことなどいろいろ述べてきましたが、当社はユーザーニーズに即した、より新しい製品、より良い製品を生み出すために「先進技術、高機能、高品質、高信頼性」をモットーにして、これからも各種の制御機器やシステムの開発により、熱エネルギーの有効利用による省エネルギーという社会的要請に対応していきたいと考えている。

